

火薬類事故防止対策研究会の開催について

令和5年3月
九州産業保安監督部保安課
産業保安グループ鉦山・火薬類監理官付

1. 研究会の開催趣旨

令和4年3月1日にカヤク・ジャパン(株)東海工場(宮崎県延岡市)において爆発事故が発生した。同社では、事故後すぐに、外部専門家を交えた事故調査委員会を設置し、爆発事故の原因究明と再発防止策の策定を進め、今回、事故報告書(カヤク・ジャパン株式会社延岡製造所東海工場第1洗浄工室爆発事故報告書)をとりまとめた。

経済産業省としては、今後、類似事故を発生させることのないよう、当該事故報告書の内容をもとに、事故原因の検証及びこの検証から導き出される事故対策について検討を行うため、学識者からなる火薬類事故防止対策研究会(以下「研究会」という)を開催する。

なお、研究会において提示された意見を集約し整理した内容については、産業構造審議会保安・消費生活用製品安全分科会 火薬小委員会において報告を行う。

2. 検討スケジュール

全4回程度開催し、GW明けを目途に報告書を取りまとめる。

第1回: 3月27日

第2回: 4月14日(現地調査)

第3回: 未定

第4回: 未定

3. 委員

三宅 淳巳 国立大学法人横浜国立大学 理事・副学長

松尾 亜紀子 慶應義塾大学理工学研究科 教授

久保田 士郎 国立研究開発法人産業技術総合研究所エネルギー・環境領域
安全科学研究部門爆発利用・産業保安研究グループ長

佐野 洋一 九州産業大学生命科学部生命科学科 講師

4. その他

- ・ 会議は、九州産業保安監督部長及び経済産業省産業保安グループ鉦山・火薬類監理官の共催で開催し、事務局は、九州産業保安監督部保安課及び経済産業省産業保安グループ鉦山・火薬類監理官付に置く。
- ・ 会議及び会議において使用する資料は、原則として非公開とする。

火薬類製造所の事故について

1. 事故発生日時：令和4年3月1日（火）13時51分
2. 事故発生場所：宮崎県延岡市水尻町304
カヤク・ジャパン株式会社 東海（とうみ）工場



(引用元：Google社「Google マップ」)

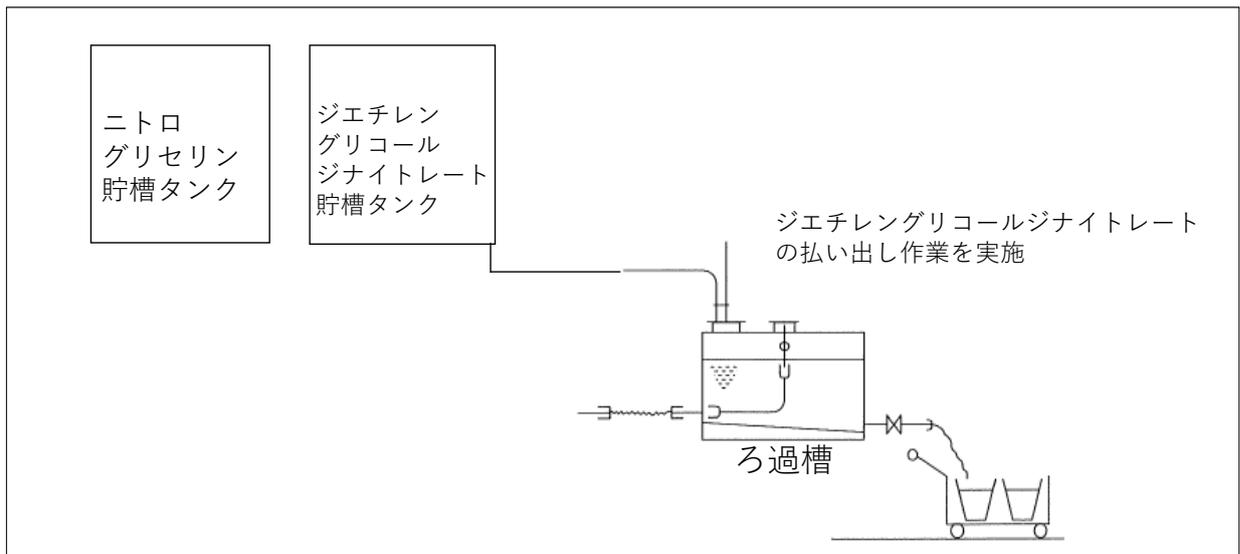
3. 事故の概要

東海工場の第1洗浄工室には、事故当日の朝（作業前）、3つの貯槽に計2,810kgの爆薬があり、No. 3貯槽のジエチレングリコールジナイトレートを次の工程に払い出す作業を3名で行っていた。アルミ容器（2個）に入れたジエチレングリコールジナイトレートを運搬車に乗せて2名で移送し、1名は残って作業をしていたところ、爆発が発生した。

4. 火薬類の種類及び数量

貯槽	貯蔵していた火薬類	作業前	爆発発生時 (推定値)
No. 1	ニトログリセリン	1,500kg	1,500kg
No. 2	ニトログリセリン	410kg	410kg
No. 3	ジエチレングリコールジナイトレート	900kg	16kg
合計		2,810kg	1,926kg

(第1洗浄工室での作業)



(カヤク・ジャパンより提供)

5. 被害の状況

(1) 人的被害

死亡者1名、軽傷者7名（うち4名は工場外の周辺地区の方）

(2) 物的被害

カヤク・ジャパン 建物62棟（全壊2棟、半壊16棟、一部破損44棟）

旭化成 建物24棟（一部破損24棟）

工場外（周辺地区） 建物125棟（一部破損、住家113戸、非住家12棟）

※周辺の住宅等で窓・ガラス、ドア・雨戸等の破損等。

6. これまでの動き

令和4年3月 1日 九州産業保安監督部職員2名を現場派遣

3月 2日 同種の爆薬製造工程を有する事業者に対し、各現場における作業手順や安全対策の再確認の徹底等について注意喚起を実施

3月14日～ カヤク・ジャパン（株）が社内事故調査を開始

令和5年1月27日 カヤク・ジャパン（株）がホームページにて事故原因を公表

2月 7日 宮崎県から火薬類取締法に基づく報告を受領（九州産業保安監督部）